

別表1 印旛沼干拓の歴史-千葉県企画部水政課発行「水のはなし」より一部抜粋-

文禄3年(1594)徳川家康は、江戸とその周辺を水害から守るために利根川東遷事業を開始した。(旧)利根川・鬼怒川・渡良瀬川を合わせて常陸川から香取の海に結びつける土木工事が開始されました。これにより上流からきた水は全て銚子の方に流れるようになりましたが、大雨になると印旛沼には、昔から流れ込む水と、新しい利根川から流れ込む水が合わさって水かさが増し、堤防が切れて周辺の田んぼなどに被害をもたらしました。これから印旛沼が「暴れ沼」と呼ばれ洪水の歴史となっていきました。

年 代	目 的	計画の概要	内 訳
享保9年 (1724)	水害防止 新田開発	疎水路 17,062m (平戸～検見川) 事業費 約 30 万両	平戸村(現八千代市)の名主染谷源右衛門が江戸幕府の許しを得、幕府から6千両を借りて工事を始めたが、資金不足で中止
天明2年 (1782)	水害防止	印旛沼開削工事	惣深新田(現印西市)の名主平左衛門、島田村の名主治郎兵衛、幕府からの6万両を資金に「享保の印旛沼開削工事」を再開する。
天明3年 (1783)	水害防止 舟 運	疎水路 (平戸～検見川)	浅間山の大噴火で利根川の川床が高くなり、水害が多発したため、老中田沼主殿頭が幕府の事業として始めたが、田沼が失脚して工事は中止
天保14年 (1843)	水害防止 舟 運	疎水路 19,080m 事業費 約 45 万両	老中水野忠邦が、天保改革の一つとして、新川・花見川の工事を始めたが、5ヶ月後に老中を失脚して中止
昭和16年 (1941)	水害防止 新田開発 舟 運	昭和放水路 29,000m (湖北～船橋) 事業費 13,300 万円	内務省で計画着工したが、太平洋戦争のため中止
昭和21年 (1946)	干拓(2,282ha) 水害防止	疎水路 16,500m 計画流量 330 m <sup>3</sup> /s 事業費 11,971 百万円	戦後の食糧増産と失業対策として、農林省が印旛・手賀沼の干拓を実施(昭和21年11月10日起工)
昭和25年 (1950)	干拓(1,715ha) 水害防止	疎水路 16,500m 計画流量 64.7 m <sup>3</sup> /s 事業費 4,390 百万円	印旛沼干拓を独立させ、疎水路を重点実施
昭和38年 (1963)	干拓(934.1ha) 水害防止 利 水	疎水路 19,583m 計画流量 146 m <sup>3</sup> /s 大和田機場 120 m <sup>3</sup> /s 事業費 18,200 百万円	疎水路に大和田機場をもうけ、工業用水「少なくとも5トン」を確保するため、酒直水門を実施 昭和37年10月水資源開発公団が引き継ぎ、昭和44年完成
平成13年 (2001)	改築機能回復	印旛・大和田・酒直機場 事業費 260 億円	印旛沼開発施設緊急改築事業として、平成13年度から水資源開発公団が実施工事期間は8年間